

いのちまもる

キャラバン行動ニュース

第 1 7 号

2014 年 11 月 18 日

日本医労連

TEL : 03-3875-5871

FAX : 03-3875-6270

愛知・犬山市議会委員会意見書

11月14日、愛知県犬山市議会「民生文教委員会」で、愛知県医労連が提出した3本の請願が採択されました。今後、本会議で意見書として上がる見込みです。

出した請願は、①「安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める請願書」、②「介護従事者の処遇改善を求める請願書」、③「愛知県看護職員15万人体制などの実現を求める請願書」の3本です。

当日は日本医労連の「賃金闘争交流集会」ため、全医労愛知地区の長尾さんが代表で趣旨説明に奮闘しました。「愛知の現在の看護職員数は7万5千人、政府が2025年に200万人体制をつくるとなれば愛知も12万は必要。看護師は女性が多く、妊娠・出産のことも考えるとプラスアルファの配置が必要」と、愛知県医労連が出した「15万人体制」が採択されました。厚労省が次の看護職員需給見通しを曖昧にする中で、このことは非常に重要です。自治体の責任で医療・介護体制をどうつくるのか、キャラバンを通じて要求し、具体化させましょう。

中国護理学会会長と懇談

11月18日、中野委員長と三浦書記長は、中国の看護協会にあたる護理学会のLiXiuhua会長、LiuHuaping副会長と滞在中のホテルで懇談しました。

護理学会は今年、ICN（国際看護師協会）に加入し、日本で行われている会合に参加したものです。

Li会長は、2016年に日中韓3国の看護協会の合同学会を北京で行うので、是非参加してくださいと言われました。日本と中国の看護をめぐる課題は、急激な高齢化と生活習慣病の増加、対応する看護職の深刻な不足という点で共通であり、今後も交流の機会を大切にすることを確認しました。

